

[2. 抄録様式]

<p>公益財団法人 8020 推進財団</p> <p>令和 4 年度 歯科保健活動助成交付事業報告書抄録</p>
<p>1. 事業名：2022 年度 I (アイ) ボッチャ 2022 In 大阪大会 ～「噛む」＋「スポーツ」で健康長寿を達成しよう！</p>
<p>2. 申請者名：特定非営利活動法人 アダプテッドスポーツ・サポートセンター 白水 雅子</p>
<p>3. 実施組織：特定非営利活動法人 アダプテッドスポーツ・サポートセンター</p>
<p>4. 事業の概要：</p> <p>本団体は、高齢者・障害者に関わる個人・団体に対して、障害者のスポーツを支援する事業を行うことにより、アダプテッドスポーツの振興に寄与することを目的としている。2005 年の設立以降、毎年スポーツを通して「ノーマライゼーション社会」の実現を目指した事業を展開しており、本年度は健康長寿をテーマに、「咀嚼能力測定」を通じて、咀嚼の効用や地域における歯科保健医療の情報発信を行う。口腔機能から全身の健康を高めることに主眼を置き、食・栄養・運動の視点から健康長寿の達成へ繋げることを目的とする。</p>
<p>5. 事業の内容：</p> <p>本団体が例年実施する障害者スポーツ大会（競技名：ボッチャ）において以下の 3 つを実施した。</p> <p>①大阪歯科大学附属病院障がい者歯科田中佑人先生より咀嚼と健康に関する講話の実施。 ②出場者とその家族、大会関係者を対象に、咀嚼能力判定グミ（UHA 味覚糖）を用いた咀嚼能力の測定。 ③摂取食品状況と歯科受診に関するアンケートおよび地域における歯科医療サービスの紹介と対象者に合わせた個別の歯科保健指導の実施。</p>
<p>6. 実施後の評価（今後の課題）：</p> <p>今回の事業では、大会参加者 126 名のうち、76 名が咀嚼能力測定を体験した。昨年度同様、咀嚼能力の評価には、スコア法を用いたことと、スポーツ大会時における試合前後の空き時間を有意義に活用したことで、多数の測定が可能であったと考える。参加者より他の口腔機能検査や身体機能も調査して欲しいといった声があったが、費用面の問題があり、実施することができなかった。実施方法や予算を検討し、さらに多くの検査項目を増やすことで、さらに障がいのある方々の健口を通じた QOL の向上に貢献ができ、より多くの生活上の健康不安に対する相談に応えられると考える。そのため次年度は、歯科相談と生活指導・相談ブースの拡充と他職種（管理栄養士や理学療法士）に協力を仰ぐことを検討している。</p> <p>今回の調査結果より、かかりつけ歯科医を持つ者は、摂取可能食品のスコアがやや高値となり、かかりつけ歯科医は、口腔機能の維持に有効であることが推察された。障がい者は、複合的な要因から、摂食や嚥下障害が認められる場合があるため、障害の種類や程度、日常生活能力にあわせた個別のセルフケアやかかりつけ歯科医による口腔機能管理が求められる。今後も、全身の健康に関わる咀嚼機能の維持・回復のために、適切な管理と動機づけを継続的に行うことが望ましいと考えている。</p>